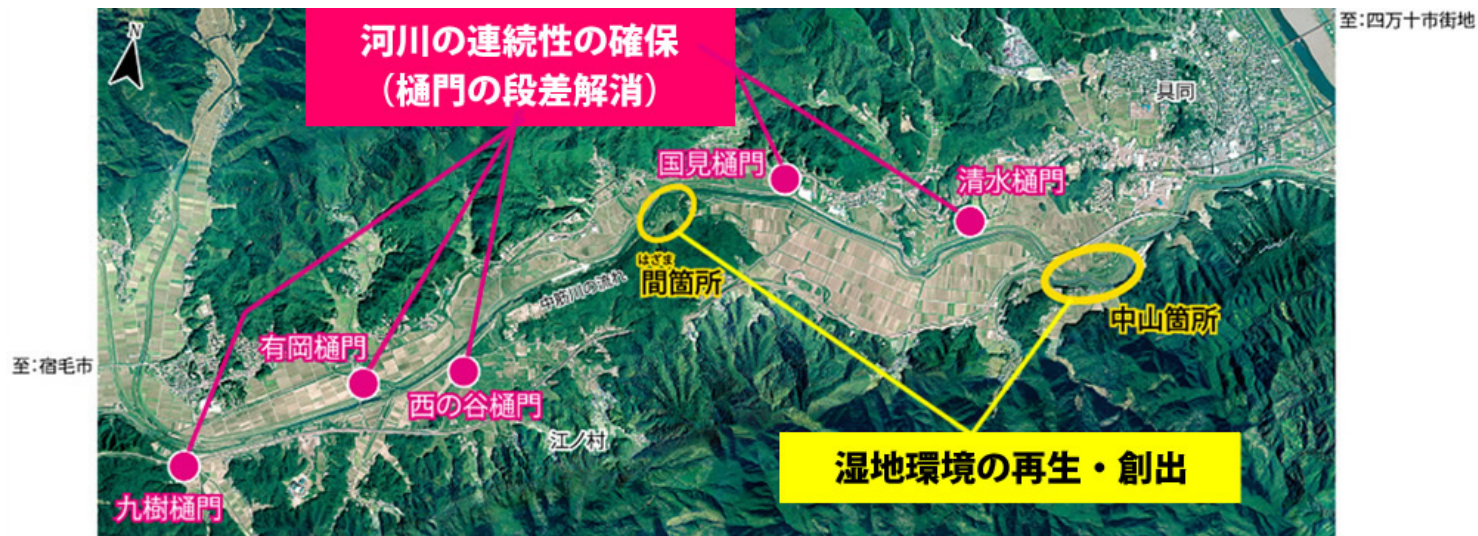


## 四万十川流域生態系ネットワーク形成の取組

---

## 四万十川流域におけるこれまでの取組 (1)

中村河川国道事務所では、四万十川自然再生事業の一環として、2002年度から『ツルの里づくり』を実施しています。ツル類が安心して越冬できる環境の再生を目指し、中筋川流域内で、ツル類の食物となる生きものを増やすための河川の連続性の確保や、ツル類のねぐら環境となる湿地環境の再生・創出に取り組んできました。



「ツルの里づくり」の実施箇所



平成19年度完成

河川の連続性の確保の実施状況(九樹樋門)

湿地環境の再生・創出の実施状況(中山箇所)



## 四万十川流域におけるこれまでの取組（2）

『ツルの里づくり』は、地域の団体と協働で実施されています。『四万十つるの里づくりの会（2006年度設立、事務局：中村商工会議所）』は、事業箇所周辺での越冬地整備として、周辺の休耕田約6haを借り上げ、除草等を行い越冬地整備を行っています。また、地元農家に依頼し無農薬の米栽培にも取り組んでいます。



整備前の休耕田



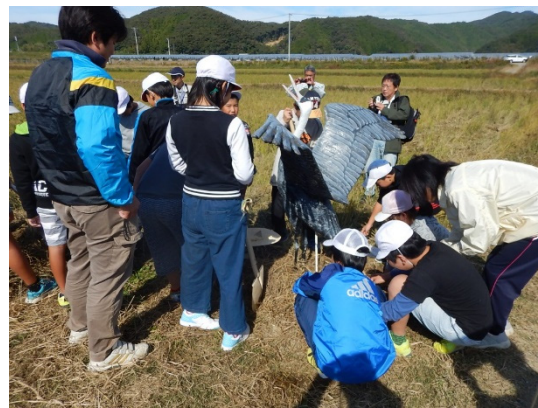
重機や人力で整備を実施



『四万十つるの里づくりの会』と国土交通省が協働で、事業箇所を利用した『自然体験学習会』の開催や、『四万十つるの里祭り』等のイベントによる普及啓発を継続的に行っています。



地元の小中学生による稲の苗植え



地元の小中学生によるデコイの設置



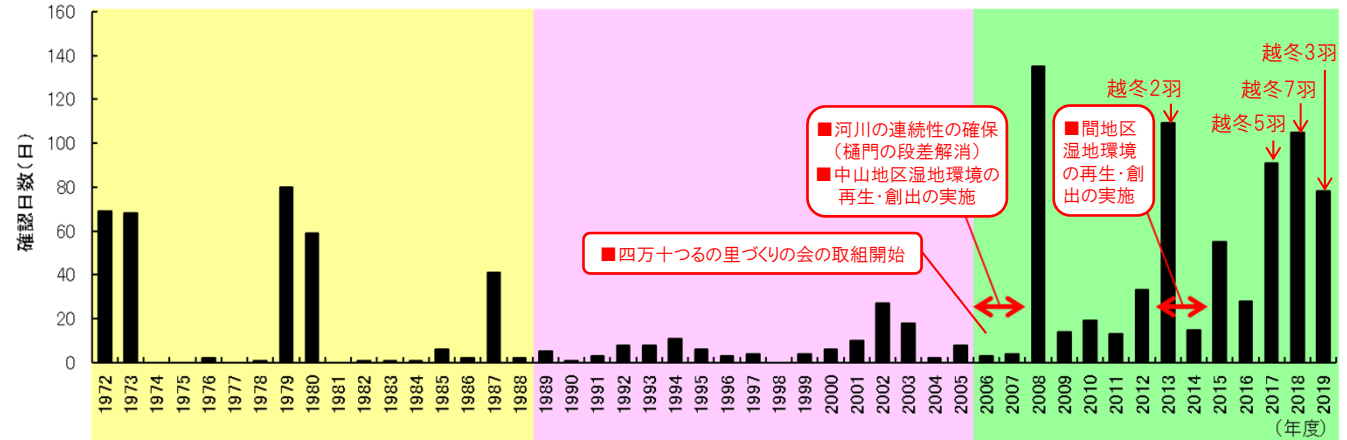
地元のお祭りとして定着した『四万十つるの里祭り』

# 四万十川流域におけるこれまでの取組の効果

これまでの取組により、ツル類の確認日数、越冬が増加しています。2013年度には、マナヅル2羽が中山地区をねぐらとして越冬しました。2015年度には観測史上最大の239羽のナベヅルが飛来しています。また、2017年度にナベヅル等5羽、2018年度にマナヅル7羽、2019年度にナベヅル3羽の越冬が確認され、四万十市では記録が残る中で初めてとなる3年連続の越冬が確認されました。しかしながら、飛来するツル類に対し、越冬個体数は未だ少ない状況にあります。



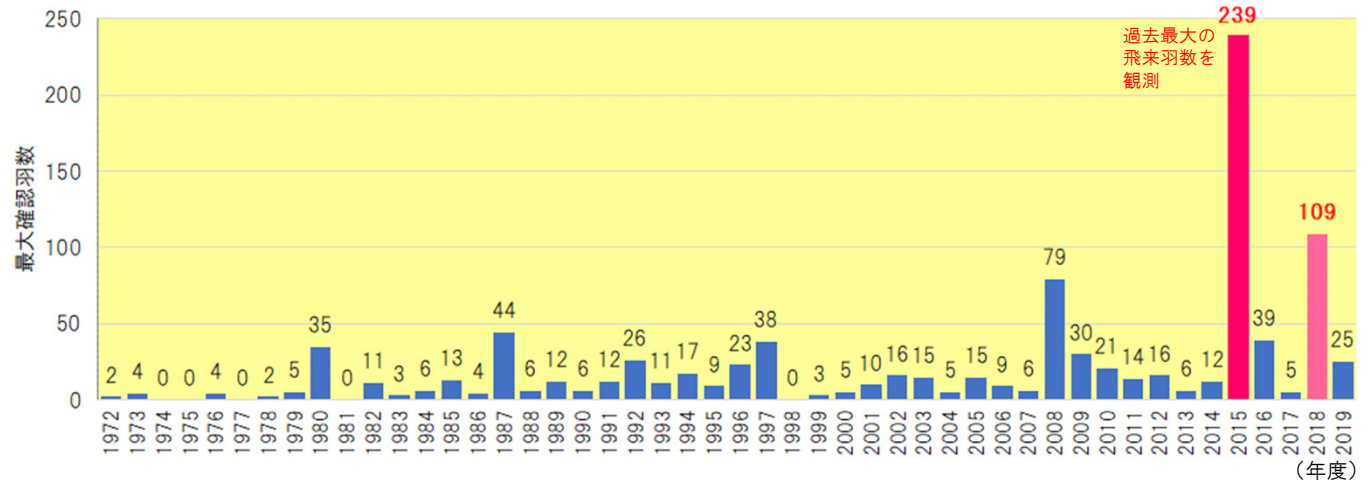
2013年度に河道内の人工的に整備した中山箇所越冬したマナヅル2羽



四万十市におけるツル類の確認日数の推移



観測史上最大数が飛来した2015年度のナベヅルの状況



四万十市におけるツル類の最大飛来羽数の推移



## 四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会

多様な主体との連携・協働により、四万十川流域の豊かな自然環境の保全・再生と地域活性化を目指す『四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会』を2019年12月に設立しました。全国的な取組や今後の取組の発展、これまでの地域の取組を活かす観点から、ツル類を指標種に設定しています。



「第2回四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会」の開催の様子

### 協議会構成員

|                    |
|--------------------|
| 四万十市 市長            |
| 四万十市教育委員会 教育長      |
| 四万十市区長会 会長         |
| 中村商工会議所 会頭         |
| 一般社団法人四万十市観光協会 会長  |
| 一般社団法人中村青年会議所 理事長  |
| 四万十つるの里づくりの会 会長    |
| 四万十川自然再生協議会 会長     |
| 高知野鳥の会 会長          |
| 国土交通省 中村河川国道事務所 所長 |

### 開催状況

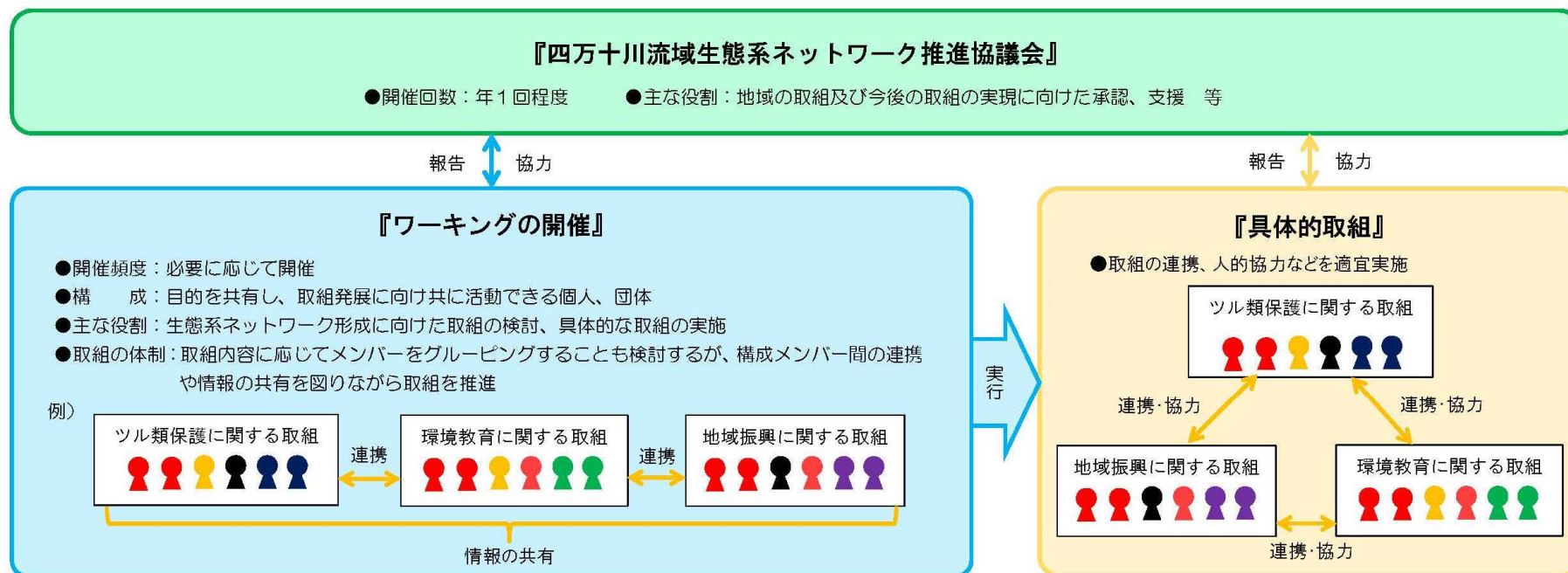
|     | 第1回  | 第2回   | 第3回  |
|-----|--|---|--|
| 開催日 | 2019年12月25日(水)   | 2021年2月16日(火)   | 2022年2月14日(月)  |
| 議事  | <ul style="list-style-type: none"> <li>生態系ネットワークについて</li> <li>四万十川をとりまくこれまでの取組</li> <li>四万十川流域における生態系ネットワーク形成に向けて</li> <li>今後の進め方について</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>四万十川流域におけるツル類の飛来・生息状況について</li> <li>ワーキングの開催及び取組状況について</li> <li>四万十川流域生態系ネットワーク全体構想(案)について</li> <li>北海道長沼町長 齋藤良彦 氏による講演及び意見交換会</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>四万十川流域におけるツル類の飛来・生息状況について</li> <li>ワーキングの開催及び取組状況について</li> <li>短期目標の達成に向けた取組(案)について</li> <li>鹿児島県出水市長 椎木伸一 氏による講演及び意見交換会</li> </ul> |

## 四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会の推進体制

四万十川流域では、生態系を指標とした魅力的な地域づくり・人づくり、生態系の保全・再生、生態系ネットワーク形成の効果的推進等の協議会の協議事項を具体的に推進するために、ワーキングを設置し、検討しています。

### <推進体制について>

- 生態系ネットワーク形成に向けた具体的な取組を地域主体のワーキング開催などにより検討、実行します。
- ワーキングから推進協議会に取組の報告を適宜行い、推進協議会の構成メンバーから必要な協力を得て取組を推進します。
- 推進協議会は年1回程度開催し、取組を報告するとともに今後の方針について議論を行います。



## 2020年度の検討

2019年12月に開催した「第1回四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会」の結果を受けて、銃猟の規制に向けた取組を重点的に進めました。また、四万十川流域生態系ネットワークの今後の進め方について、全体構想を検討・作成するとともに、有識者との意見交換を通して今後の取組内容の検討を進めました。

### ○2020年度の主な取組内容

#### ①銃猟の規制に向けた取組

- ・特定猟具使用禁止区域の指定手順と必要な手続きを確認。
- ・特定猟具使用禁止区域の要望範囲(案)を整理。
- ・猟友会や各地区の関係者との調整を継続的に実施。

#### ②全体構想の検討・作成

- ・ツル類の安定した越冬環境づくり、ツル類を活かした地域・人づくりの取組内容や目標を検討。
- ・第2回四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会で承認を得た。

#### ③意見交換

- ・ツル類の越冬環境づくりの検討に資するため、生態学が専門で、関東地方の生態系ネットワーク形成に関わってこられた長谷川雅美氏(東邦大学理学部教授)を招いて、意見交換を実施。
- ・自然を活かした観光の展開の可能性の検討に資するため、地域資源を活かした企業研修やアドベンチャーツーリズムに造詣が深い真田直也氏(株式会社JTB高知支店長)を招いて、意見交換を実施。
- ・多様な主体と連携・協働した取組の検討に資するため、豊岡市でのコウノトリとの共生の取組に当初から関わってこられた宮垣均氏(兵庫県豊岡市コウノトリ共生課)を招いて、意見交換を実施。
- ・ツル類を活用した地域づくりの検討に資するため、タンチョウも住めるまちづくりに取り組む齋藤良彦氏(北海道長沼町長)を招いて、意見交換を実施。



協議会の開催状況



有識者との現地確認



# 四万十川流域生態系ネットワーク全体構想 概要

## 生態系ネットワークについて 2～6頁

- 生態系ネットワークとは、保全すべき自然環境や優れた自然条件を有する地域を核として、それらを有機的につないでいく取組です。
- 生態系ネットワークの形成により、私たちの暮らしを支える生態系サービス(生物多様性がもたらす様々な恵み)を持続的に得ることが期待されます。また、周辺市町における農業・観光・環境教育などの取組成果に付加価値が生じ、地域の活性化に向けた展開も期待されます。
- 全国各地で河川を基軸とした生態系ネットワーク形成の取組が進められています。四国では、2018年2月に「四国圏域生態系ネットワーク推進協議会」が設立されています。

## 指標種のツル類について 7～9頁

- 生態系ネットワークの形成にあたっては、地域を特徴づける野生の生きものを指標種とすることが有効です。四万十川流域では、「ツル類」(主にナベツルとマナツル)を指標種に設定します。
- 現在、鹿児島県出水市では、1万羽以上のツル類が越冬しています。一極集中による感染症等の発生や農業被害などが懸念され、新越冬地形成の取組が進められています。
- 四万十市南部地域は有力な新越冬地形成の候補とされ、中筋川流域は生息地としてポテンシャルが高いことが明らかになっています。



ナベツル



マナツル

## 四万十川流域における取組状況 10～14頁

- 四万十川自然再生事業の一環として、2002年度から「ツルの里づくり」が行われています。また、2006年度に設立された「四万十つるの里づくりの会」により、事業箇所周辺の越冬地整備や普及啓発の取組が継続的に行われています。
- 四万十川自然再生事業や四万十つるの里づくりの会の取組が始まってから、ツル類の飛来頻度、飛来個体数が増加しています。
- 今後、ツル類が安定して越冬できるように生息環境づくりの取組を継続、拡大するとともに、ツル類を活かした地域・人づくりの取組を推進することが望まれます。



四万十つるの里祭り



体験学習会

## 四万十川流域生態系ネットワークの目標 15～16頁

### 四万十川流域生態系ネットワーク形成の目的

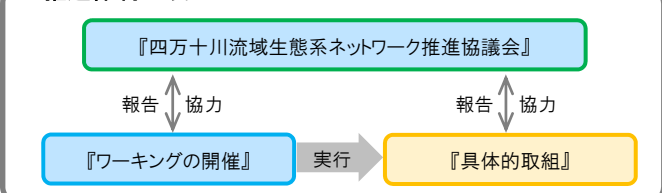
- ツル類を指標とした河川と取り巻く地域が一体となった自然環境の保全と再生による生態系ネットワークの形成
- ツル類を指標とした生態系ネットワークの形成を通じた地域活性化及び経済振興の実現

| 短期目標(～2025年)   | 中期目標(～2030年)  | 到達目標(～2050年)  |
|--|---|---|
| <h3>ツル類の安定した越冬環境づくり</h3> <p>これまで取組が行われてきた江ノ村地区、ツル類の飛来実績が多い森沢・間地区において、農業者の理解、協力を得て、冬期湛水等のねぐら環境の創出や、二番穂の確保等の採食環境の創出が行われている。</p> <p>また、地域住民等の理解、協力を得て、ツル類への人為的なストレスが低減されている。</p> <p>これらの取組により、四万十川流域で越冬できるツル類の個体数が増えている。</p>        | <p>江ノ村地区、森沢・間地区において、ねぐら環境・採食環境の創出、人の利用の調整が、ツル類を活かした農業振興や観光振興も相まって、継続されている。</p> <p>また、流域内のツル類の生息ポテンシャルが高い地区でも、農業者や地域住民等の理解・協力を得ながら、生息環境づくりが進められている。</p> <p>これらの取組により、四万十川流域でさらに多くのツル類が越冬できるようになっている。</p> | <p>四万十川流域で、河川を基軸とした生態系ネットワークが形成され、「宝」である生態系と歴史・文化・伝統を活かした産業が営まれている。</p> <p>ツル類を指標とした四万十川流域での取組から、幡多地域の生態系ネットワーク形成へ取組が展開されている。</p> |
| <h3>ツル類を活かした地域・人づくり</h3> <p>江ノ村地区や森沢・間地区において、農業者の理解・協力を得ながら、ツル類が飛来・越冬することによる農産物の付加価値化が進められている。</p> <p>地域住民等の理解、協力を得ながら、観光利用でのルール設定や受け入れ体制の構築が行われ、来訪者の受け入れが始められている。</p> <p>地域内外への情報発信や普及啓発の継続により、四万十川流域の「つるの里」としての認知度が上がっている。</p> | <p>ツル類が飛来・越冬することによる農産物の付加価値化が継続して取り組まれ、地域内外への流通・販売が展開されて、経済効果を上げている。</p> <p>地域の事業者等との連携・協働により、ツル類を活かした観光が行われ、経済効果を上げている。</p> <p>地域内の多様な主体が参加・協働する取組になるとともに、地域外の人や組織との連携・協働が進み、地域の関係人口が増えている。</p>        | <h3>四万十市の「宝」である生態系を保全し、活かし、地域の活力にする</h3>  |

## 取組内容 17～36頁

| ツル類の安定した越冬環境づくりの取組  | ツル類を活かした地域・人づくりの取組   |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>◆堤内地での代替ねぐらの確保                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・冬期湛水</li> <li>・遮蔽帯の設置</li> </ul> </li> <li>◆堤内地での採食環境の創出                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・二番穂の確保</li> <li>・有機栽培、特別栽培</li> <li>・適度な畔の刈り取り</li> <li>・水田魚道の設置、水路の段差解消</li> <li>・水路の堰上げ</li> <li>・置石工、乱杭工</li> <li>・水路上部への蓋掛け</li> <li>・水路へのスロープの設置</li> <li>・中干しの開始時期や期間の変更</li> <li>・退避溝(江)の整備</li> </ul> </li> <li>◆耕作放棄地の再活用</li> <li>◆デコイの設置</li> <li>◆人の利用の調整                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ツル類が飛来していることの周知と協力依頼</li> <li>・ツル類を刺激しない観察機会の提供</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ツル類を活かした農業振興                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・農産物の価値の向上</li> <li>・オーナー制度の導入</li> </ul> </li> <li>◆ツル類を活かした観光振興                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールを設定</li> <li>・旅行商品や体験プログラムの開発</li> <li>・受け入れ体制の整備</li> <li>・物産品の開発</li> </ul> </li> <li>◆理解と関心の醸成                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報発信の拡充</li> <li>・情報提供イベントの実施</li> </ul> </li> <li>◆人材の育成・確保                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・取組への参加の機会の提供</li> <li>・学校教育等との連携・協働</li> <li>・地域間の交流の推進</li> <li>・地域外の人や組織との連携・協働</li> </ul> </li> <li>◆資金の調達                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・寄付金の活用</li> <li>・交付金、助成金の活用</li> </ul> </li> </ul> |

## 推進体制 37頁





## 2021年度の検討内容

有識者との意見交換を通して、短期目標の達成に向けた取組内容を検討し、「四万十川流域生態系ネットワーク 短期目標の達成に向けた取組（2021年～2025年）」を作成しました。また、四万十市に飛来するツル類が安心して過ごせるように「四万十ツルの観察マナー」を作成・公表し、啓発活動を行いました。

### ○2021年度の主な取組内容

#### ①短期目標の達成に向けた取組内容の検討

- ・2020年度に作成した「四万十川流域生態系ネットワーク全体構想」の短期目標の達成に向けて、具体的な取組内容を検討。
- ・ワーキングでの検討を踏まえて、「四万十川流域生態系ネットワーク 短期目標の達成に向けた取組（2021年～2025年）」を作成し、四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会で承認を受けた。

#### ②「四万十ツルの観察マナー」の作成・公表

- ・四万十市に飛来するツル類が安心して過ごせるように、観察にあたってのマナーを検討。
- ・ワーキングでの検討及び四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会委員への照会を経て、「四万十ツルの観察マナー」を作成・公表。

#### ③意見交換

- ・ツル類が飛来・越冬することによる農産物の付加価値化の検討に資するため、四万十市が推進している「しまんと100年40010日プロジェクト」の担当である宮脇さなえ氏（四万十市農林水産課）を招いて、意見交換を実施。
- ・耕作放棄地を活用したビオトープ整備やツル類を活かした地域づくりの検討に資するため、吉野川流域における生態系ネットワーク形成に取り組まれている柴折史昭氏（NPO法人とくしまコウトリ基金）を招いて、意見交換を実施。
- ・地域住民や農業者等との連携・協働の検討に資するため、新潟県佐渡市での人とトキが共に生きる島づくりに当初から関わってこられた渡辺竜五氏（新潟県佐渡市長）を招いて、意見交換を実施。
- ・ツル類の新越冬地の形成の取組の検討に資するため、椎木伸一氏（鹿児島県出水市長）を招いて、意見交換を実施。



ワーキングでの検討



意見交換会での講演

# 四万十川流域生態系ネットワーク短期目標の達成に向けた取組（2021年～2025年）

四万十川流域生態系ネットワーク全体構想に掲げられた短期目標の達成に向けて、取組内容を示した「四万十川流域生態系ネットワーク短期目標の達成に向けた取組（2021年～2025年）」を作成しました。

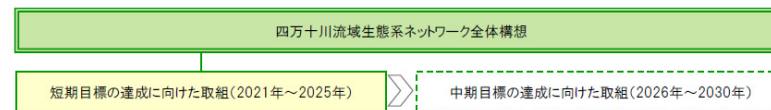
## 短期目標の達成に向けた取組(2021年～2025年)の目次構成

- 1 四万十川流域生態系ネットワーク全体構想の概要
  - 1-1. 四万十川流域生態系ネットワークの趣旨
  - 1-2. 全体構想の位置づけ
  - 1-3. 対象区域
  - 1-4. 四万十川流域生態系ネットワークの目標
  - 1-5. ツル類の安定した越冬環境づくりの問題点と取組項目
  - 1-6. ツル類を活かした地域・人づくりの問題点と取組項目
- 2 短期目標の達成に向けた取組について
  - 2-1. 位置づけ
  - 2-2. 取組の推進と点検
- 3 ツル類の安定した越冬環境づくりの取組
  - 3-1. 堤内地での代替ねぐらの確保
  - 3-2. 堤内地での採食環境の創出
  - 3-3. 耕作放棄地の再活用
  - 3-4. デコイの設置
  - 3-5. 人の利用の調整
- 4 ツル類を活かした地域・人づくりの取組
  - 4-1. ツル理を活かした農業振興
  - 4-2. ツル類を活かした観光振興
  - 4-3. 理解と関心の醸成
  - 4-4. 人材の育成・確保
  - 4-5. 資金の調達

## 2 短期目標の達成に向けた取組について

### 2-1. 位置づけ

・四万十川流域生態系ネットワーク全体構想に掲げられた短期目標の達成に向けた2021年～2025年の具体的取組を示しました。



### 2-2. 取組の推進と点検

・四万十川流域生態系ネットワークの短期目標の達成に向けて、多様な関係主体と連携・協働し、各取組を推進します。  
 ・各取組の毎年の進捗状況を、ワーキングにおいて点検するとともに、必要に応じて内容の見直しや追加を行うこととします。  
 ・各取組の当該年の成果や進捗状況を、四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会に報告し、推進協議会の構成メンバーから助言や協力を得ます。  
 ・各取組の達成状況を、2025年に確認・評価し、次期中期目標の達成に向けた取組（2026年～2030年）に反映します。

## 3 ツル類の安定した越冬環境づくりの取組

### 3-1. 堤内地での代替ねぐらの確保

#### 【概要】

関係者の理解・協力を得て、田んぼへ冬期に水を張ることにより、ツル類の代替ねぐらを堤内地で確保します。

#### 【取組の流れ】



#### 【工程】

| 取組内容   | 2021年 | 2022年 | 2023年 | 2024年 | 2025年 |
|--|-------|-------|-------|-------|-------|
| <input type="checkbox"/> 取組候補箇所の検討を行う。                                 | →     |       |       |       |       |
| <input type="checkbox"/> 江ノ村地区で、代替ねぐら環境を創出する。自動撮影カメラを設置して、モニタリング調査を行う。 |       |       |       |       | →     |
| <input type="checkbox"/> 江ノ村地区で取組箇所を拡大することを検討する。                       |       |       |       |       | →     |
| <input type="checkbox"/> 森沢・楠島・間の各区の農業者へのヒアリングや意見交換会を行う。               |       |       | →     |       |       |
| <input type="checkbox"/> 農業者の理解・協力が得られれば、関係者との調整を行い、代替ねぐら環境を創出する。      |       |       |       |       | →     |
| <input type="checkbox"/> 成果・課題等を整理し、2026年以降の取組内容を検討する。                 |       |       |       |       | →     |

# 「四万十ツルの観察マナー」の作成・公表


四万十市におけるツル類との接し方を示した「四万十ツルの観察マナー」をワーキングで検討し、四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会委員への照会を経て、「四万十ツルの観察マナー」を作成しました。「四万十ツルの観察マナー」を作成したことを記者発表するとともに、四万十市内の地区回覧で文書を回覧しました。


## 四万十ツルの観察マナー


四万十川や中筋川の周辺には、毎年10月下旬から3月上旬にツルが飛来します。  
ツルは警戒心が強く、人や犬などが近づいたりすると驚いて逃げますので、  
ツルが安心して過ごせるように、以下のマナーを守っていただくようお願いします。




**1**  観察は200m以上離れて、双眼鏡等を使いましょう  
飛来初期である10月下旬～11月中旬は特に警戒心が強いので、大人数での観察は300m以上離れてください


 **2** ツルが苦手な大きな音や、  
人工の光を出さないようにしましょう

車で通行中にツルが近くにいたら、  
止まらずにゆっくり通り過ぎましょう **3** 

 **4** 犬の散歩はリードをつけて、  
ツルに近づかないようにしましょう

通行の妨げにならないようにしましょう **5** 

ツルを観察するための専用駐車場はありません

 **6** 私有地や農地に無断で立ち入ったり、  
農作業を妨げないようにしましょう

【発行】四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会、四万十つるの里づくりの会、国土交通省中村河川国道事務所、四万十市  
【問い合わせ先】四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会事務局 国土交通省中村河川国道事務所計画課  
TEL: 0880-34-7306 FAX: 0880-34-1395 メール: skr-nakama45@mlit.go.jp

令和3年11月



## 堤内地での代替ねぐらの創出

四万十川流域において、ツル類の飛来頻度、飛来個体数が増加したものの、主要なねぐらである四万十川の砂州周辺での落ちアユ漁、狩猟等の影響により、11月中旬以降には他地域へ飛び去る個体が増加し、越冬に至る個体数は極めて少ない状態です。そのため、四万十川の砂州を利用できなくなった場合の代替ねぐらを確保することが重要です。

### ツル類のねぐら環境の条件

- ・湛水深:5~10cm
- ・人工光が入らないこと
- ・日の入り1時間前~日の出1時間後に人や犬が近づかないこと



### 江ノ村地区でのねぐら環境の創出

江ノ村地区の田んぼの一部に、冬期に水を張り、デコイを設置しました。水を張った田んぼの状態を確認するために、自動撮影カメラによるモニタリングを行いました。今期は、ナベヅルのねぐら利用と周辺での採食利用の様子を確認することができました。また、ツル類以外にも、日中はサギ類、夜間はカモ類が利用していました。



ナベヅルが周辺の水田で採食  
(手前の5体はデコイ)



ねぐらをとったナベヅル24羽  
(手前の5体はデコイ)



デコイの真ん中でねぐらをとったナベヅル1羽

## ツルの自然体験学習会

夏のツルの自然体験学習会を、2021年7月6日（火）に東中筋小学校6年生11名、東中筋中学校1年生3名の計14名の児童生徒を対象として実施しました。四万十つるの里づくりの会から「四万十市にやってくるツル」や「四万十つるの里づくりの取組」の講話のほか、中村河川国道事務所より「国土交通省の取組」を説明しました。また、秋のツルの自然体験学習会での交流授業に向け、鹿児島県出水市のツルの現状やツルの越冬地の分散化計画、出水市立鶴荘学園の取組の紹介を行いました。

秋のツルの自然体験学習会を、2021年10月29日（金）に東中筋小学校6年生10名、東中筋中学校2年生5名の計15名の児童生徒を対象として実施しました。江ノ村地区でデコイ（ツルの模型）の設置を行った後、出水市立鶴荘学園（8年生10名）とオンラインで交流授業を行いました。それぞれの地域の紹介とツル類の保全の取組を発表し、質疑応答を行いました。



ツル類に関する説明



東中筋小学校・中学校の発表

### 【質疑応答の内容】

#### 東中筋小学校・中学校

- ◇地域の方と行うツルの行事などはあるか。  
→地域の方、ツル保護会の方と羽数調査をしたり、観光客に対してツルガイドを行ったりしている。
- ◇ツルについて調べて、一番びっくりしたことは何か。  
→ツルが意外と大きいことにびっくりした。
- ◇なぜツル科を作ろうと思ったか。  
→義務教育学校で、国語や算数以外の教科を1つ作れる。ツルの活動が一番盛んな学校なので、ツルに関する教科を作った。

#### 鶴荘学園

- ◇東中筋小学校の公認キャラクターの「つるたん」は、いつ作ったのか。  
→今の高校1年生が小学校6年生のときに作った。
- ◇パンフレットで四万十つるの里祭りを見て、出水にはそういう祭りがないので、いいなと思った。1,000人くらい参加しているとのことだが、みんなにツルのことを理解してもらえているという実感はあるか。  
→（佐伯氏）お祭りをやって12年になるが、地域の方々もツルのことについて興味を持ってきている。来年、再来年と続けていきたいと思っている。



5班に分かれ、ナベツルのデコイを設置



鶴荘学園からの発表



# 四万十つるの里祭り

2021年11月27日（土）に「第13回四万十つるの里祭り」（主催：四万十つるの里づくりの会）が開催されました。当日は、ツル観察バスツアーや取組を紹介するパネル展、四万十の野草がゆをふるまうツル食堂、太鼓の演奏などが行われ、約1,000人の来場者がありました。四万十川・中筋川流域がツル類の飛来する貴重な環境であることやツルの里づくりの取組について、多くの方に伝えることができました。



多数の来場者でにぎわう会場



東中筋小学校、東中筋中学校の児童・生徒による学習発表



ツル観察バスツアーの参加者に動画を使用して取組を説明



中筋川の堤防からフィールドスコープや双眼鏡を用いてナベヅルを観察

## ツル観察バスツアー

バスで会場から中筋川右岸側の堤防まで移動し、江ノ村地区でナベヅルの観察を行いました。14名の参加があり、実施後のアンケート(回答者13名)では、回答者全員が「満足」という回答をいただきました。

### 今回のバスツアーは何を通じて知りましたか？

|                   |   |
|-------------------|---|
| つるの里まつりチラシ        | 6 |
| 国土交通省のホームページ      | 0 |
| SNS               | 0 |
| その他               | 7 |
| ・イベントに来てから知った ・友人 |   |

### 四万十市の環境を学習したり、体験したりできるイベントやツアーがあればどのようなものに参加してみたいですか？

|   |   |
|---|---|
| 四万十市を代表する植物や生き物を専門家に説明してもらいながら見たり触れたりできる学習会 | 7 |
| 農業や漁業などの体験を通じて四万十市の環境を学習できるイベント             | 2 |
| 四万十市を代表する景観や環境を専門家に説明してもらいながら複数箇所巡るツアー      | 3 |
| その他(①～③と組み合わせたら良いもの)                        | 1 |
| ・四万十市にいる留鳥や他の渡り鳥の観察ツアーなども計画して下さい。           |   |

(無回答1名)